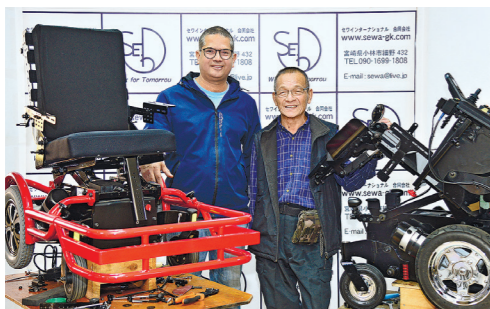


産業開発部門

セワインターナショナル合同会社

代表社員 ハビブ・ウル・ラハマン・ムハマド 小林市細野432



事業内容 オーダーメイド電動車いすの
開発・製造・販売

当社は、小林市で障がい者一人ひとりの体型にフィットしたオーダーメイドの電動車いすを開発し、製造、販売している。当社製品は、障がい者が自立できるよう、利便性や安全性を高め、シートのリクライニングや昇降も可能な多機能型の電動車いすである。さらに足場の悪い場所でも走行でき、障がい者の行動範囲拡大に貢献している。また、車いすサッカー競技用の電動車いすも開発・製造・販売するなど、スポーツなどの様々なシーンに応じた製品開発も手掛けている。出身地であるバキスタンからの技術者も指導育成しており、今後、当社製品が世界へ広がることが期待されている。

地方創生部門

柳田酒造合名会社

代表社員 柳田 正 都城市早鈴町14街区4号



事業内容 新しい芋焼酎の開発に関する研究

当社は1902年の設立以来、都城市で120年にわたり焼酎をつくり続けている。エンジニアの経歴を持つ現代表が社氏を務め、「赤鹿毛」「青鹿毛」などのユニークで個性的な焼酎を得意とする。日本の人口減少による焼酎市場の縮小を懸念し、県内の焼酎蔵元が永年存続できるよう、海外市場に向けた新たな焼酎を研究開発。その焼酎は、外国人の好む「パンチ」と「キレ」があり、海外のコンクールで数々の賞を受賞し、他の蔵元とコラボするなど、海外市場開拓に取り組んでいる。一方、女性や若者を意識したフレーバーリッチタイプの焼酎となる品種「ハマコマチ」を使用した焼酎を開発し販売するなど、今後も県内焼酎蔵元の存続・発展につながる新たな焼酎づくりが期待されている。

ベンチャー企業部門

株式会社ビートコアジャパン

代表取締役 関本 彰 宮崎市青島1-11-7



事業内容 体幹・バランストレーニングマシン
「ビートコア」の開発・販売

「ビートコア」は独自の金属ポールパネの弾性を利用し、天板を自重で揺らすことで体幹力、バランス力、下半身を強化出来る事が特徴である。すでにトップアスリートがトレーニングに使用しており、松田恵里選手(女子プロボクシング世界チャンピオン)、村上右磨選手(スピードスケートオリンピック)、西村優花選手(女子プロボディボードチャンピオン)が輝かしい成績を収めている。また、同時に一般の方も健康増進、体力アップを目的に、年齢を問わず幅広い方々が使用している。今後、宮崎発のトレーニングマシンとして、スポーツ界(キャンプで訪れるスポーツ団体など)や医療分野での利用拡大が期待されている。

学術研究部門

宮崎大学 バイオメカニクス研究チーム

代表 准教授 山子 剛 宮崎市学園木花台西1-1



事業内容 ロコモを予防するロボットの開発と
社会実装

当研究チームである宮崎大学バイオメカニクス研究室では、身体の動きや力を解析する基礎研究とそれを医療機器やスポーツトレーニングなどへ応用する研究に取り組んでいる。宮崎大学医学部整形外科との連携においては、ロコモティブシンドロームの予防・改善を図るロボット「ロコボット」を開発。これまでの成果として、ロコボットは転倒防止に重要な足関節筋群を効果的に刺激できることや人工股関節置換術後のリハビリテーションにおいて従来よりもバランス機能を早期に回復できることを実証した。また、ロコボットは商品化され、病院、高齢者施設などに導入されている。今後県民の健康寿命延伸に寄与できるものと期待される。

【2023年度】第42回

助成先決まる

宮崎銀行ふるさと振興助成事業(宮崎県)

一般財団法人 みやぎん経済研究所

ごあいさつ

宮崎銀行ふるさと振興助成事業の助成対象となられた皆さま、誠にありがとうございます。

宮崎銀行ふるさと振興助成事業は、株式会社宮崎銀行が創立50周年を記念して、地域産業の振興と発展に貢献することを目的に開始し、これまでに宮崎・鹿児島両県で累計371先に3億2,520万円の助成を行っております。今回の助成につきましても、皆さまの取り組みや研究が地域の発展に大きく貢献していくと確信しており、また皆さまの活動を一層飛躍させる一助になれば幸いです。

今後本助成活動を通じ、地域の皆さまの活動・研究を支援していくとともに、助成先の皆さまの更なる発展を心より祈念いたします。

一般財団法人 みやぎん経済研究所
理事長 杉田 浩二

地方創生部門

ベジエイト株式会社

代表取締役 重富 保 都城市下水流町3485番地1



事業内容 農地・農業者離れの中での営農活動
による地域振興

当社は、大規模な集出荷場と貯蔵施設を活用し、都城市で生産された甘藷、牛蒡、大根、水稲を中心とした農産物を、独自に開拓した販売ルートで県内外へ出荷している。これまでにサツマイモの規格外品を加工品として販売するなど契約農家150戸の安定収入や食品ロス削減に貢献してきた。一方で、地域で増加する耕作放棄地への管理及び作物栽培を手掛けるなど、地域課題解決に大いに貢献している。今後は、新規就農者の育成事業や農作業受託等、農家、産地と連携しながら地域のハブ機能として、さらなる地域農業への貢献が期待されている。

地方創生部門

吉田産業株式会社

代表取締役 吉田 利生 日南市南郷町榎原甲2091番地



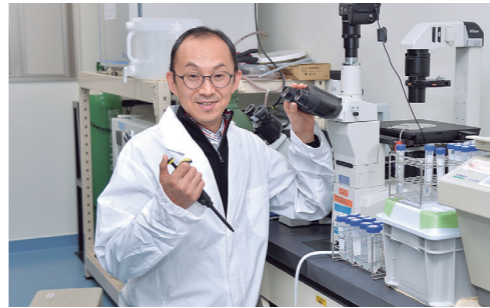
事業内容 飼肥杉を用いた集成材加工商品
普及と規格化

当社は、これまでに素材生産、製材、製品化とグループ企業で県産木材の価値ある商品を市場に提供してきた。特に、飼肥杉使用の高品質集成材については、JAS(日本農林規格)規格化や大手住宅メーカーへの販売など県産木材普及に尽力している。また、素材生産から製品化までに排出された端材などを利用したバイオマス発電により、自社工場を含めたグループ企業の電力を賄うなど、SDGsにも貢献している。今後も県産木材の普及促進やSDGsなど、地域林業への貢献が期待されている。

学術研究部門

宮崎大学 農学部 応用生物科学科

教授 山崎 正夫 宮崎市学園木花台西1-1



事業内容 宮崎県産ブルーベリー葉の
健康機能性研究

山崎教授は、県産オリジナル作物であるブルーベリー葉の健康機能性を研究しており、数多くの学術論文を発表している。ブルーベリー葉エキスは、脂肪肝予防、血糖改善作用、抗肥満作用など生活習慣病予防や飲酒による健康障害の予防効果があることが研究成果で判明しており、当研究は、生体レベルの実験に留まらず、実験動物、さらにはヒトに対しての評価までを実施するなど評価の高い内容である。ブルーベリー葉を使った商品はすでに販売されており、今後、宮崎を代表する機能性素材としての発展が期待されている。

学術研究部門

宮崎県畜産試験場 酪農飼料部

代表 副部長 廣津 美和 西諸郡郡高原町大字広原5066



事業内容 国産子実トウモロコシの
活用に向けた研究

宮崎県畜産試験場酪農飼料部では、世界情勢などによる飼料価格高騰を受けて、県内畜産農家の経営安定を支援するため、国産子実トウモロコシの活用に向けた研究を行っている。すでに、場内では国が目標とする収量800kg/10aの栽培実績があり、調製方法の違いによる消化性の検証や飼料生産コストなどのデータを収集している。今後、本県における子実トウモロコシの栽培、収穫、保管、調製方法が確立することで、輸入に頼らない安心安全な宮崎県畜産物の生産による経営安定への寄与が期待される。